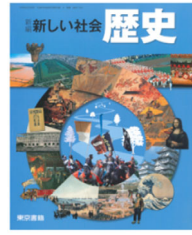


2020年10月3日 西洋中世学会(オンライン開催)

若者の西洋中世離れ

通俗的西洋中世像と中等教育における西洋前近代の取り扱い



北海道教育大学旭川校
津田拓郎

本報告の目的

- 若手研究者や一般層における急速な「西洋中世」への関心低下を指摘する
- こうした状況をもたらした要因の一つとして、中世研究者と一般層の中世理解の乖離を取り上げる
⇒ 中世学会全体で問題意識を共有し、方策を考えるための出発点とする

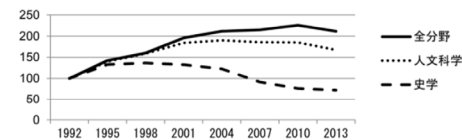
• はじめに

1. 中世(史)研究の減少

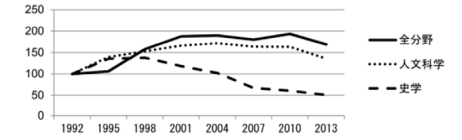
- 2. 中等教育と西洋中世
- 3. 通俗的西洋中世像と西洋中世像の空白化
- おわりに

史学科全体における大学院生の減少

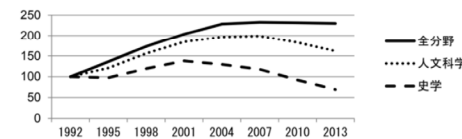
1 大学院修士課程・博士前期課程学生数の推移 (1992~2013年、1992年度を100とした場合)



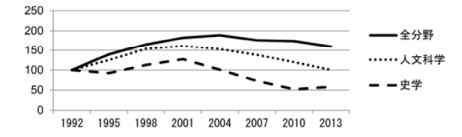
3 大学院修士課程・博士前期課程志願者数の推移 (1992~2013年、1992年度を100とした場合)



2 大学院博士(後期)課程学生数の推移 (1992~2013年、1992年度を100とした場合)



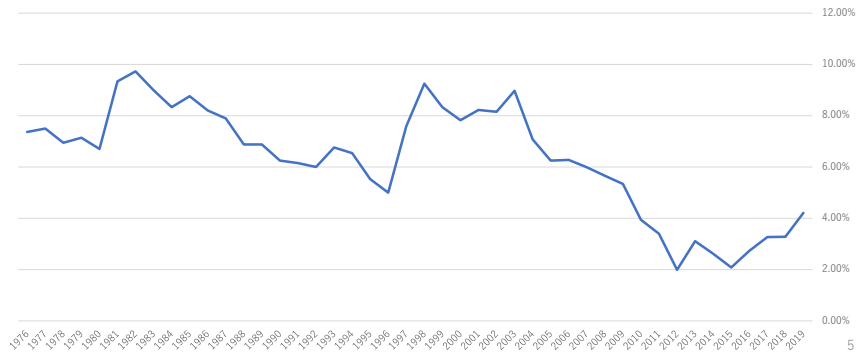
4 大学院博士(後期)課程志願者数の推移 (1992~2013年)



出典：浅田進史「大学院拡充化以降の20年間に史学専攻の大学院生・志願者がいかに減少してきたか」(浅田のブログ記事「2020年度歴研大会特設部会準備ノート(11)」より)

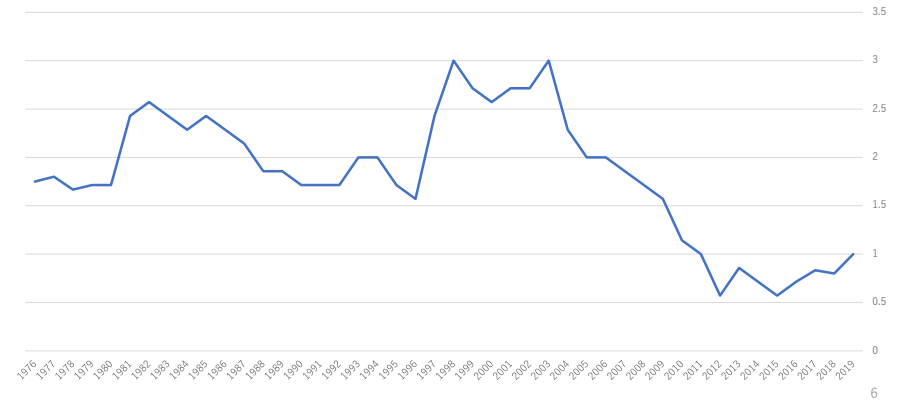
『史学雑誌』

論文・研究ノート中の西洋中世関係割合(前後7年間の平均)



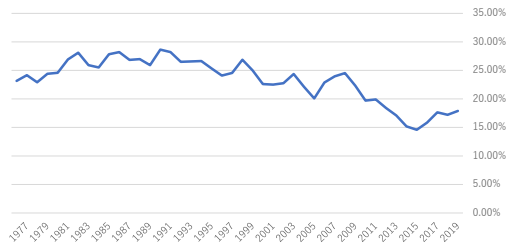
『史学雑誌』

西洋中世論文・研究ノート数(前後7年間の平均)

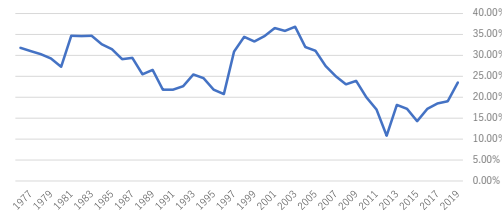


『史学雑誌』

論文・研究ノート中の西洋史割合7年平均

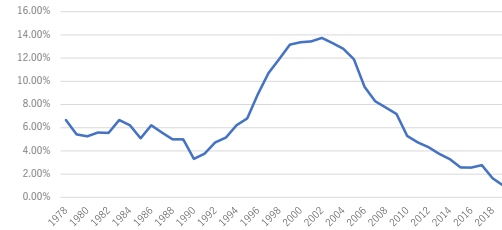


西洋史中の中世割合7年平均

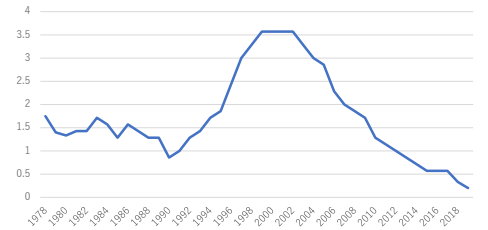


『史林』

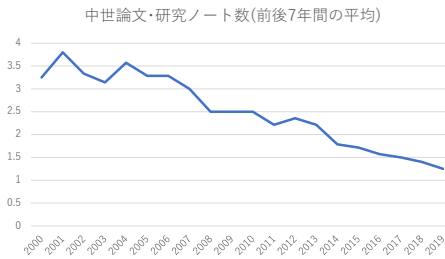
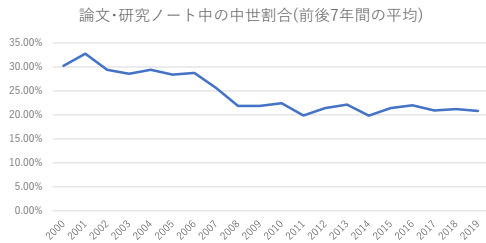
論説・研究ノート中の西洋中世割合(前後7年間の平均)



西洋中世論説・研究ノート数(前後7年間の平均)



『西洋史学』



9

『史学雑誌』 『史林』 『西洋史学』 の調査から

- 国内トップジャーナルにおける西洋中世史の論文数は2000年前後をピークに大幅に減少
- 「歴史学」全体を対象にしたジャーナルにおける西洋中世史の論文の占める割合も2000年前後をピークに大幅に減少

10

考えられる要因

- 研究成果公表場所の多様化
 - 海外の雑誌
 - 国内の各種雑誌・紀要
 - 『西洋中世研究』
- 海外での学位取得の増加
 - 書き下ろしの学位論文が処女作となる事例
- **研究者の減少・査読を通過できるほどの質を保った論文の減少**

11

中世史の若手研究者減少を示す事例

- 日本西洋史学会における中世史部会の報告者の大幅減（昨年・今年）
- 『史学雑誌』 「回顧と展望」における中世史の若手研究者減少の指摘（一昨年～今年）

12

歴史学全体に占める「西洋中世史」のプレゼンスが低下しているのではないか？

*歴史学以外分野の中世研究の状況は報告者には分かりません。
ご意見や実感をお聞かせください

13

- はじめに
- 1. 中世(史)研究の減少
- **2. 中等教育と西洋中世**
- 3. 通俗的西洋中世像と西洋中世像の空白化
- おわりに

14

高等学校「歴史総合」必修化(2022年度以降)

- 世界史Aまたは世界史Bが必修の現体制から「歴史総合」(と「地理総合」)を必修とする形へ転換
 - *世界史Aは近現代中心ながら古代・中世・近世史も含む内容
- 「歴史総合」はフランス革命以降のみが対象
- 大多数の人間にとって、前近代の世界史を学ぶ機会は中学社会歴史分野のみとなる
 - *世界史Bの後継科目たる「世界史探究」の選択者は高校生全体の1割程度という見積もりも

15

東京書籍中学社会歴史分野(2018年発行)

16

時代区分が学べないづくり

- 中世と近世の時代区分が不明瞭
⇒ ロマン主義的中世イメージ(中世と近世・近代の混同)に意図せずして加担している可能性
- 学界における連続説への配慮？
⇒ 本文中に「近世」への言及が一切ないのは問題

17

中学校社会歴史分野の2020年検定済見本本

- 東京書籍のものは、中世ヨーロッパとイスラーム世界の分量が2頁増加し、時代区分をもより明確に打ち出した内容に。特に「近世」の存在に明言している点も特筆すべき
- 教育出版のものは現行の教科書も2020年検定見本本も、中世ヨーロッパとイスラーム世界の分量が多く、時代区分も明確
- その他の出版社のものはヨーロッパ中世の扱いが極めて小さい
- 新たに参入する山川出版社のものは…

18

- はじめに
- 1. 中世(史)研究の減少
- 2. 中等教育と西洋中世
- **3. 通俗的西洋中世像と西洋中世像の空白化**
- おわりに

19

北海道教育大学旭川校社会科教育専攻 1年生(40名)対象のアンケート(2020年7月)

- 方法：全員受講する「教職論」の授業に際してgoogleフォームを用いて調査(回収率100%)。記述内容が成績評価には関係しないことを伝えた上で、何らかの資料を調べることなく回答するよう依頼
- 設問
 - 「西洋中世」について、どのようなイメージを持っているか、自由に記述せよ
 - 「西洋中世」に関する人名・事件名・その他固有名詞などで思いつくものを書け(大量に思いつく場合は真っ先に思いついたものを数個記載せよ。何一つ思いつかない場合は「全く思いつかない」と記載せよ)

備考：この段階で回答者は西洋史・外国史関係の授業は一切受講していない

20

貴族の妻が生活に贅帯にでている新しい時代のイメージ	百年戦争 ジャンヌダルク
ロマン、私としては一番想像しづらい時代。どのような朝、王朝があったのかのように変化したのかイメージしにくい。	全く思いつかない
宗教に対する意識が一層強いイメージ。どんなに強く、激しい争いをしていてもローマ教皇に破門されたことですごいあらたまったようなエピソードを聞いて衝撃を受けた。	全く思いつかない
女性は服を着るのが大変なイメージ。服のせいで骨格が変形したり、病気になるったりと聞いたことがあります。	ルネサンス
国同士の戦いが高頻度で起こっているイメージ。	十字軍、エルサレム、オスマン帝国、コロンブス
期間が長く、キリスト教社会であったというイメージがあります。生活が大変そう、貴族は豪華なイメージがある。	百年戦争 ジャンヌダルク 暗黒時代 黒死病、コロンブス、
貴族や王族などがとても多く、重要な地位を占めている。自らの誇りをかぶっている。見栄を張ることが多い	ナポレオン、バステューユ監獄、ルイ13世、教皇は権威なり
文化の復興	ルネサンス
日本に於いて日本文化と西洋文化(ルネサンス期)の融合が始まった時代。	全く思いつかない。
暗黒時代 世界史取ってなかったので全くわかりません。 「帝国」という名の国が多く	全く思いつかない ローマ帝国
貴族が権威に満ちている。その一方で、一般庶民が苦しい生活を強いられている。絶対王政が敷かれている。そしてそれを打開するために、革命が各所起こる。	ルイ16世、マリーアントワネット、フランス革命、テニスコートの誓い、パリ・コミュニケーション、ナポレオン
黒人と白人の差別。また絶対王政などといった一方的支配が多い時代であると感じる。	コロンブス、マゼラン、
ヨーロッパはルネサンスや宗教改革といった貴族的なイメージが強い ヨーロッパは戦いがたくさん起こっているイメージです。	ルネサンス 宗教改革 十字軍の進出
ルネサンスとローマ帝国について	あまり思いつかない
封建社会、キリスト教社会といったイメージが強い。	十字軍、百年戦争、バラ戦争
日本より、産業や文化、建物などが発展していたこと。	リチャード1世
常に争がしらの戦いが発生しており、戦を離れた騎士が戦っている。激動の時代というイメージを持っています。 ルネサンスや宗教革命で文化の発展が見られる。	ジャンヌ・ダルク、レオナルド・ダ・ヴィンチ、十字軍、百年戦争 ルター

大航海時代、戦乱、疫病、聖職代行権 改革が頻りに多く起きていたイメージ	カール大帝、グレゴリウス三世 十字軍 ルネサンス、ローマ帝国
激動の時代	ルネサンス 宗教改革 ルター カルバン 免罪符 ダヴィデ像
古代のローマとルネサンス以降が並立せず、バツとしないイメージです。	全く思いつかない
騎士たちが戦争しているイメージ。	カール大帝、十字軍
ベルサイユ宮殿やマリーアントワネットなどフランスのイメージが強いです。王様がお城に住んでいるというおとぎ話の世界観だというイメージです。貴族たちは舞踏会などを楽しむ一方で平民たちの生活は貧しく、貴族の妻が美しいイメージです。	マリーアントワネット、ベルサイユ宮殿、ナポレオン
1000年戦争など戦乱としたイメージ	1000年戦争、ルネサンス
絶対王政があって市民とかが団結してやっつけるようなイメージ。またはキリスト教中心の世界	ヴィットーリオ・エマヌエーレ二世、エリザベス
様々な王様が存在していた。	プランタジネット朝、百年戦争、ペスト、十字軍
城外郭の形成	百年戦争、レコンキスタ、ノルマンコンクエスタ
城が地味 前の時代と比べて絵が下手	カノッサの屈辱、カール大帝、キリスト教
貴族などの華やかなイメージと、戦争に付随する騎士や死のイメージ、宗教色の強いイメージや、美しい建築のイメージもあります。	十字軍、百年戦争、ゴシック様式
キリスト教が社会に大きな影響力を持っている。身分によって生活が大きく異なる。	ピピンの寄進、カノッサの屈辱、アナニニ事件、百年戦争など。
巧い、権力者がいる、宗教が強い。	領主、貴族、黒死病、キリスト教、荘園。
布教を巡る争いと絶対王政	ナポレオン、バステューユ監獄、十字軍
赤い城壁の城に大きな城郭がかけられているイメージ。そして王家、王族が争いを絶えず行っているイメージもある。	イザベル女王、百年戦争、東方見聞録
ルネサンス期に様々な学問、主義などが開花したというイメージ。	ルネサンス、宗教改革、大航海時代
大航海時代に際して列強と呼ばれることになる国の基礎が作られた時代。	ジョン王
ルネサンスのような文化の発達した時代と伝染病が流行した時代というイメージ	レオナルド・ダ・ヴィンチ、百年戦争、ルター

中世には当てはまらないと思われる回答の例(事項のみ)

- ルネサンス、ダヴィデ像、レオナルド・ダ・ヴィンチ
- 大航海時代、イザベル女王、マゼラン
- 宗教改革、ルター、カルバン、免罪符、エリザベス、
- 朕は国家なり、絶対王制、ルイ13世
- フランス革命、ルイ16世、テニスコートの誓い、バステューユ牢獄、マリーアントワネット、ベルサイユ宮殿、ナポレオン、パリ・コミュニケーション
- ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世
- ローマ帝国

「中世」にある程度当てはまるとと思われる回答の例

- イメージ
 - 伝染病の流行、汚い、城が地味、絵が下手、暗黒時代、殺伐としたイメージ、ぱっとしないイメージ、宗教が根強い、身分制度、騎士、様々な王朝が存在
- 事項
 - 百年戦争、ジョン王、東方見聞録、十字軍、領主、黒死病、ペスト、荘園、ピピンの寄進、カノッサの屈辱、アナニニ事件、ゴシック様式、カール大帝、グレゴリウス3世、レコンキスタ、ノルマンコンクエスタ、プランタジネット朝、リチャード1世、薔薇戦争、ジャンヌダルク、暗黒時代、エルサレム、オスマン帝国

目立つのは「近世」との混同と「暗黒時代」イメージ

「暗黒時代」イメージの徹底的な否定
 ↓
 中世ヨーロッパイメージの空白化・
 ロマン主義的中世イメージの強化
 ↑
 「暗黒時代」に代わるイメージの不在

25

おわりに

- 中世学会(および個々の学会員)は何をすべきか
 - 新たな世代の研究者の減少に歯止めをかける方策
 - 学界全体を通じた戦略的な研究者養成
 - プロパー以外のポストや在野で研究を行う可能性の模索・環境の整備
 - 学校教育への積極的な関与
 - 「歴史総合」導入時の無為・無策に対する真摯な反省
 - 「高大」連携にとどまらない形で教育業界との連携
 - 「一般層」への訴え
 - 大多数の日本人が西洋中世に対して無知・無関心であることに対する正しい認識
 - 「お客さん」以外への情報発信
- 特に西洋中世研究の(魅力だけでなく)意義・必要性の積極的な発信

26

吉岡昭彦「日本における西洋史研究について－安保闘争のなかで 研究者の課題を考える」『歴史評論』121、1960年

- 「スポーツニクがとんでいるような現代」に、「見たこともない外国の、そのまた特殊地域の、しかも遠い過去を研究する」ことの意義を論じるべき
- 「現在まで古代・中世・近世初期の研究に従事した歴史家の少なくとも一部は近代史・現代史の研究に移るべきであり、新しく出てくる研究者もまたこの研究対象に集中すべきである」

*堀米庸三「総合的歴史観への一提言－吉岡昭彦君への答にかえて－」『歴史評論』123、1960年における反論も参照

参考文献・資料

- 山田耕太・梅村尚樹・仲田公輔・須田牧子「世界史的視野で中学校歴史教科書の前近代史叙述を検討する」『歴史学研究』956、2017年
- 長谷川修一・小澤実『歴史学者と読む高校世界史』勁草書房、2008年
- 森悠人・津田拓郎「中学校歴史教科書における中世とルネサンスの扱いについて」『史流』47、2020年
- 浅田進史「大学院拡充化以降の20年間に史学専攻の大学院生・志願者がいかに減少してきたか」(<https://asadashinji.hatenablog.com/entry/2020/09/04/181051>)

28